

(様式第1号)

平成27年度第2回総合教育会議 会議録

日 時	平成27年11月6日(金) 13:30 ~ 15:00
場 所	市役所北館4階教育委員会室
出 席 者	山中市長 福岡教育長 教育委員 木村 雅史・浅井 伊都子・松本 朋子・小石 寛文
司 会	米原企画部長
事 務 局	岸田管理部長, 北野学校教育部長, 中村社会教育部長, 奥村政策推進課長, 坂惠管理課長, 荒谷学校教育課長, 中塚学校教育部主幹, 長岡生涯学習課長, 森田企画部主幹, 山川管理課係長, 御宿政策推進課主査, 上田教諭
会議の公開	■ 公開
傍聴者数	3 人

1 会議次第

- (1) あいさつ
- (2) 議題1 平成27年度全国学力・学習状況調査の結果について
- (3) 議題2 平成28年度当初予算要求における教育委員会の主な事業について
- (4) その他

2 提出資料

- (1) 次第
- (2) 議題1資料 全国学力・学習状況調査(報告)
- (3) 議題1資料 全国学力・学習状況調査(報告)
～児童生徒の生活習慣や学習環境に関する質問紙調査結果～
- (4) 議題2資料 平成28年度 当初予算要求における教育委員会の主な新規事業等について

米原企画部長 ただいまから平成27年度第2回総合教育会議を始めさせていただきます。なお、私は前回に引き続き司会を務めさせていただきます、企画部長の米原です。よろしくお願いいたします。

早速ですが、市長に開会の挨拶をお願いします。

山中市長 皆さん、こんにちは。大変お忙しいところ、第2回総合教育会議に出席いただき、本当にありがとうございます。

現在、本市ではまちづくりの指針となる第4次芦屋市総合計画の後期基本計画と政府の提唱する総合戦略を策定し、先般、答申をいただいたところです。

人口ビジョンですと、おかげさまで芦屋市は、しばらくは微増が続いていきますが、10年先からは減少社会に入っていきます。この減少の流れをどう食い止めるか、私は常々、教育がしっかりしているまちに衰退はないということを申し上げていますので、教育そして安全がしっかりしていると、人口減少というのもしばらくは大丈夫だと思っています。

兵庫県が教育県になれば、それなりに人口も減らないのではないかと、ということを県の総合戦略会議でも言いました。安全と教育、この2つを柱にしまして、本市の施策を進めていく上で、今日は有意義な会議だと認識しています。

本日の会議も、芦屋の子どもたちにとって、そして、芦屋の教育によって実り多い会議になることにしたいと思しますので、先生方どうぞよろしくをお願いします。

米原企画部長 ありがとうございます。

議事に入る前に、会議の成立と公開の取り扱いについて確認させていただきます。本日は全委員が出席ですので、会議は成立しています。

そして、本会議は原則公開です。本日の議題については、特に個人情報等非公開とすべきものはありませんので公開と考えていますが、よろしいでしょうか。

一同 異議なし

米原企画部長 ありがとうございます。それでは、了解をいただきましたので、公開とします。

本日は傍聴者の方が3人おられますので、入室いただきます。

それでは、議題1に入ります。平成27年度全国学力・学習状況調査の結果について、事務局から内容の説明を申し上げます。よろしくをお願いします。

荒谷学校教育課長 それでは、議題1 平成27年度全国学力・学習状況調査の結果について、お手元の資料をもとに説明をします。

それでは、1ページ目をお開きください。

まず調査の概要です。調査の目的については、①義務教育の教育機会均等と水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図る。

②各教育委員会、学校等が、上記の取り組みを通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立するということです。

調査の対象学年及び実施状況については、市内小学校6年生、中学校3年生、合計1,288名がこの調査を受けました。

実施調査日については、平成27年4月21日火曜日に実施しています。

調査内容は、教科に関する調査について国語、算数・数学及び理科の3教科です。国語及び数学については、A問題、B問題に分かれています。A問題については、主に知識を問う内容、B問題については、活用を問う問題で構成されています。理科については、3年ぶりに実施しましたが、両方を一体的に問う構成になっています。

また、②番として、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査をあわせて実施しています。

2ページをご覧ください。

調査結果の公表についてですが、国、県の方針としては、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面にすぎないことなどを踏まえ、結果の公表に当たっては、序列化や過度な競争につながらないように十分に配慮することとしています。

これを受け、本市の基本方針として、調査結果を十分に把握・検討し、今後の教育施策や教育実践の改善に反映していくことが重要であるとの基本的な考えのもと、説明責任を果たすためにも市全体としての結果を示すこととしています。

今年度に関しては、国語、算数・数学、理科の3教科で実施されました。結果は、小中学校ともに今年度も全ての教科で全国平均を上回り、市教育委員会では「十分に評価できる結果」と考えています。

質問紙調査結果では、本市児童生徒の学習習慣、生活習慣等に関して、評価できる点が多いものの、幾つか課題も読み取れることから、今後も積極的に改善に取り組みますとしています。

具体的にどのような内容であったかを説明いたします。

本市の各教科の調査結果の概要，4の部分の表をごらんください。

この表の見方ですが，縦に大きく小学校6年生と中学3年生で分けています。小学校6年生，一番上の数字，横並びは全国の平均正答率，2つ目，黒の網かけの部分については芦屋市の平均正答率。次の全国比較というところについては，例えば，国語Aでは110という数字が書かれていますが，これは下の米印，全国比較は全国の平均正答率を100とした場合の本市の数値。評価は115以上を「極めて良好」，105以上115未満を「良好」，95以上105未満を「おおむね良好」，95未満を「課題あり」として表しています。

例えば，国語A，全国正答率70，芦屋市の平均正答率が76.8，全国の平均正答率70を100とした場合，比較すると芦屋市は110であることから，その下の評価，良好ということになります。このように見ていきまして，芦屋市では国語A，B及び算数Aについては全て良好，そして，算数・数学のB活用の問題については，小学校，中学校とも115を超え，極めて良好という結果が出ています。また，理科においても良好ということで，十分に評価できる結果であると考えています。

各教科の領域別の状況については，この後3ページ，4ページにも記していますが，最初の2ページのところの中盤にも書いているように，小中学校とも記述式問題に課題があります。

では，3ページ，4ページをお開きください。

特徴的なところだけ説明します。小学校国語，これは芦屋市の子どもたちの特徴的な部分を挙げています。例えば，国語A「コラムの中で著者が引用している言葉を書き抜く。」これは全国平均正答率が19.8%，芦屋市の平均は29.8%で，全国では2割に満たない正答率であった部分ですが，引用という言葉が子どもたちの中にもまだ定着していないので，どの部分を書き抜いていいかわからないという児童が多かったということです。

また，中学校の国語については，国語B，活用する問題の2の三，「資料を参考にして2020年日本の社会を予想し，社会にどのように関わっていきたいか，自分の考えを書く。」こちらも記述になっていますが，3つの表の中から2つの表やグラフを参考にして，自分の言葉で2020年の社会を予想して書き抜くという問題になっていますが，こちらのほうについても，中学生にとっては困難な問題でした。子どもたちは自分の言葉で書くという部分については，今回も，例えば，

小学校、中学校の算数・数学においても、答えだけを書くのではなく、どう考えているのか自分の言葉で書きなさいというような問題が多く出されておりましたが、子どもたちにとってこのあたりは非常に苦手な意識を持っているということが今回はっきり出てきています。

小学校の算数については、算数B、2の(2)黒丸の上です。「20%増量した商品の内容量が480ミリリットルであるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書く。」ということで、割合を考える問題になっています。割合については、算数・数学だけでなく、理科でも同様の濃度を問うような問題ですが、全国の正答率は13.1%、芦屋市で35.6%と、子どもたちにとっては非常に難しく、苦手意識を持っている部分であり、無回答の子どもも多かったというところです。

続いて、中学校数学については、例えば、数学Bの「映像の明るさを2倍にするための投影面積の考え方を選び、その理由を説明する。」というところで、こちらについても、理由を自分の言葉で説明することに苦手意識を持っている生徒が多いということが読み取れます。

また、理科については、例えば、小学校の理科、一番下の3の(6)の問題、「水の温度の砂糖が水に溶ける量との関係のグラフから、水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、選らんだ理由を書く。」ということで、こちらについても記述式という部分で、書き切れない子どもが多くいたということです。

最後に、中学校理科ですが、こちらは、1の(1)「濃度5%のナトリウム水溶液100グラムをつくるために必要な塩化ナトリウムと水の質量を求める。」ということで、これは濃度の問題ですが、割合ということで、このあたりについても正答率が5割前後で、難しいことが読み取れます。

以上が、簡単に子どもたちの教科に関する学習の成果と課題の部分です。

続きまして、子どもたちの質問紙調査に対しての結果の部分を説明します。7ページをお開きください。

まず、教科の学習に関する子どもの意識の変化ですが、前回の小学校6年生から中学校3年生に成長したときに、子どもたちがどのような変化をしてきたかを比べてみました。

国語をご覧ください。一番左、小学校6年生のときには、勉強で国語が好きと答えた子どもは63.4%おりましたが、中学校3年生では55.7%に減少していま

す。当然、学習が難しくなりますので、ここが減るということはいたし方ない部分ですが、この部分で国語で7.7%の減少、一方、数学は67.2%から58.3%と8.9%の減少、理科については、82.1%から65.4%と16.7%減少しています。

また、勉強が好きの2つ下、授業はよくわかるという部分については、国語、算数ともに減少していますが、特に理科については、よくわかると88.8%答えていた子どもたちが、中学に入りますと65.0%と23.8%減少しています。特に理科について、好き、あるいはよくわかるという子どもが大きく減っているというところは課題があると感じています。

理科については、小学校でも理科推進員がついて、実験、観察等を丁寧に行っていますが、中学生になると論理的問題が多くなり、苦手意識が出てきますので、今後の対策を考えなければなりません。

続いて、学習や生活に対する意識・実態について、8ページで説明します。

1番、学校の決まりを守っていると答えた子どもは、小学生は本市で38%ということで、全国よりも少なく、中学校で62%は守っていると答えている子どもがいるのに小学校は随分減っています。小学校というと、学校の決まり、規則というのはどの部分を指しているのか、例えば、廊下を走らない、右側を歩く、そういった部分から子どもたちが細かく見ていくと守れていないところが多いと判断していることが多いのではないかと感じています。

一方、中学校については、ある程度、校則、学校で決められた規則がはっきりしていますので、自分の判断ができていないのではないかと思います。

2番、「いじめはどんな理由であってもいけないことだと思う」ということについては、小学校では83.7%がいけないと答えていますが、中学生は68.5%と低くなっているので、課題であると考えています。いじめられるほうにも問題があるのではないかと、思っている子どもも、まだまだいるのではないかとということが考えられます。

一方で、4番、5番、6番自分自身の自己肯定感、また、夢や希望を持ってという部分については、全体的には前回よりも数字は上がってきています。特に6番の将来の夢や目標を持っているということに関して、文部科学省もキャリア教育を大きな柱として上げてきていますが、今後、このあたりの数値が、子どもたちが伸びていくように見ていくことも大切だと考えています。

では、9ページをご覧ください。

9ページについては、子どもの学力と生活習慣等でどういう相関関係があるのかということを集計しています。

例えば、朝食を毎日食べている子の正答率がどうであったか、濃い色を毎日食べている、右に下がっていくほど食事を食べていない、正答率が低くなっているということで、朝食を毎日食べている子ほど正答率が高くなっている。逆に、違う視点から見ますと、基本的な生活習慣が整っている子は力をつけているということが見てとれるのではないかと考えています。

また、(2)番、読書が好きについても、読書が好きと答えている児童・生徒ほど正答率が高くなっています。

最後に、家で自分で計画を立てて勉強をしていますかということで、自分自身で主体的に学習ができる児童・生徒、こちらについても正答率が高くなっているということが、このグラフから読み取ることができます。

今のこの資料については、ホームページ、あるいは、必要なところを抜き出してまして広報にも掲載をして報告をしています。

以上です。

米原企画部長 説明は以上です。質問や意見等ありましたらご自由にお問い合わせいたします。

山中市長 公表は各市、同じようにされているのですか。

福岡教育長 まず最初に、平均点等の公表のしかたです。芦屋市は、従来は平均点、平均正答率までは出していませんでした。昨年度から、市全体としての平均正答率を出すようにしています。全県的に見ても平均正答率を出す傾向になってきています。各学校の平均正答率まで出すという考えは教育委員会としては持っていません。出し方としては、丁寧に出していると私は受けとっています。

まず注意して見なければならないのは、芦屋の子どもたちで、小学校の子どもたちの全てが中学校に進学しているわけではないので、分母が若干変わっているということです。他市と比べて、適齢の子どもたちを100とするならば、小学校は大体90%、中学校では60%ということです。

小石委員 先ほどの学力に関しまして、実は全国平均で比べると全部高いです。だから、そもそも日本の教育の問題というか、むしろそういうことを教育目標に掲げ

ているなら、現場はどういう教育をするか。そういう課題をむしろ一般的には提示されているように思います。もちろん、芦屋では具体的にどうするかというのは課題としては出されていると思いますが、そういったもともと日本の子どもたちが苦手だと分けられていたようなところが、そのまま苦手のままだという現状が結果として見られました。

山中市長 横並びで各市町同じような統計が出ていれば比較できますが、そういったわけではないですね。

北野学校教育部長 例えば、西宮であれば独自の偏差値という考え方で、ある一定の数字を出しています。平均正答率を出しているところもあれば、そうでないところもありますので、各市バラバラです。上回っているとか、上回っていないというところについては、大体公表しているという状況です。

山中市長 ざっと見られて、県内でも最高水準に近いのですか。

北野学校教育部長 学校の中を比較すれば、8校あってもいろいろです。それぞれの学校でじゃあ自分のところの課題は何だろうかということを振り返ることが、高いところは高いなりの課題がありますし、低いところには低いところの課題がありますので、それに向けて取り組んでもらうということになります。

今回、学力調査の一番大きな特徴というのは、教科だけでなく生活質問紙も一緒についているのが大きいと思っています。生活習慣と学力は大きく関わっている。つまり、生活習慣を改善していくことによって、学力向上と、それをつなげることができるのではないのでしょうか。それから、学び方ですね、どういう学び方をすればいいかということで、学び方や教え方を変えれば、それが学力向上につながり、生活質問紙と教科をリンクさせる形で、全体でトータル分析しているのが、今回のこの調査結果です。

松本委員 生活の質問紙の1ページの19番に、家の人は授業参観や運動会などの学校行事に来るというところで、その率が全国平均より芦屋が低いですね。平均よりも低いという点について、何か分析的なことはありますか。

北野学校教育部長 特にこの項目について分析していませんが、運動会は比較的保護者の方は大勢来ています。ふだんの授業参観ですと、日曜参観をすればかなりの人数が来ますが、例えば平日のそういう参観等があったときに特に都市部は若干低くなる可能性があります。

福岡教育長 補足ですが、教育委員会として思うのは、多様な働き方の中で、保護者に配慮しないといけないということです。保護者の中で、来たくても来られないという保護者もいらっしゃいます。そういうときに、いかに学校の情報を保護者の方に伝えるかということです。また、たくさんの方が学校に来られるということだけをよしとするのではなくて、家に帰って子どもと話す時間を確保していただきたい。

木村委員 今の話と別ですが、全体的に知識と活用の2つの評価で、活用するのほう为上回っているというか、知識の評価も高く、それは非常にいいことだと思っていて、芦屋でブックワーム芦屋っ子という、読書活動を進めているということが1つプラス要因としてあると思います。目先の学力向上だけではなく、基礎にある能力であるとか、コミュニケーション能力であるとか、そういうところを重視していく。表面上の点だけ、点数だけ高くなるような教育ではなく、ベースアップするようなことをこれからも行っていくべきだと思います。

あと、朝食を毎日食べているかとか、規則正しい生活をしているかということと学力との間に相関関係があるということですが、これは家庭に対する周知が必要で、朝食をちゃんと食べさせてくださいと、規則正しい生活させてください。そしたら、こんなに成績も違うということ、具体的に家庭にアピールしていかないといけないと思います。こういうグラフを市のホームページで出すだけじゃなくて、保護者だよりとか、そういうところで示したり、家庭での環境改善をより進めていくことが必要だと思いますので、アピールの仕方は今後も検討していただきたいと思っています。

以上です。

浅井委員 トータルでこの結果を見まして、はっきり説明にありましたように、国語では引用ということがちょっと苦手で、まだ子どもたちが意味をよくわかっていない。それから、理科の濃度とか、数学でも割合がわかっていないということがはっきりしている。この学力調査を利用して、そこを伸ばしていくことが出来ますね。また、「自分の言葉で書けていない」ということ。言葉は、国語・数学…すべての教科に関わってきますから、自分の言葉でしっかり書けなければなりませんね。

そして、理科は中学生になって随分難しいと思う子どもが増えていることも事

実ですが、こちらの質問票の75番で、将来、理科や科学技術に関係する職業につきたいと思う、どちらかといえば思うも含めて、全国平均よりも高い数値になっています。ということは、中学生になって座学というか、どんどん勉強は難しくなりますけれども、実験やら観察やらの楽しさもあって、理科が好きな子どももかなり多い。これは頼もしい、うれしい事実かなと思っています。

夏の教育トークにもありましたが、「早寝・早起き・朝ごはん」がいかに大切かということがはっきり出てきているので、木村委員が言ったように、これを家庭に返して、わかっていただくことが重要だと思います。

小石委員 平均を上げるというのは、下をどう上げるかということだと思います。

先ほどからずっと朝食のことが出ていますが、基本的には家庭の教育力みたいなものを反映していると思います。この場合、注意しないといけないのは、しようと思ったらできるのにできていない家庭と、しようと思ってもそれをできない家庭があることをどう我々が把握するかです。最近、特に子どもの貧困家庭の問題というのが出てきたり話題になったりしていますし、どうしてもうまくできない家庭を、我々はどこかできちんと認識しておく必要があるだろうと思います。

恐らくこういうところにはデータは出てこないと思いますが、点数の分布で下の方の子どもたちの何か環境的な問題だとか、特徴をつかまえてみるということも必要だと思います。

この9ページの自分で計画を立てて勉強をするということをどう指導するかにつなげていくというのは、学校の中である程度できる手だてなので、できるだけ努力して、みんなで子どもたちに指導して行ってほしいという、そんな気がしました。

木村委員 社会教育委員の会議でも申しましたが、今、小石委員が言われたように、指導がきちっとできない家庭をどうしていくのか。学校からのアプローチだけでは限界があって、私が社会教育委員の会議で申したのは、地域社会、お隣さんなどがお互いに支え合うというまちづくりをしていかないと、非常に困難な家庭を救うことは難しい。例えば、町内会、自治会というものの活性化とか、施策として今、全国的にどこでもそうですけれども、自治会とか町内会の力がすごく衰えてしまって、地域社会自体が非常にマイナスになってきてしまうと。それに対しては、私はできるだけ抗って活性化するようなことをしていくことが本当に必要

だと思しますので、1つの検討課題だと思っています。

山中市長 結果は子どもたち、親に返していますか。

北野学校教育部長 一人一人の個票がありますので、個票で子どもたちには返ってくることになります。それから、学校全体の状況については、各学校が同じような形で分析した結果を各保護者に返しているということです。

山中市長 これはあくまで平均ですけども、現場におられてびっくりするような点をとっておられる子どもや、非常に深刻な子どもはいますか。

北野学校教育部長 A問題は結構、基本的な問題が多いですので、上のほうの点数の子どもがたくさんいます。ですから、ほぼ満点という子も何人もいます。逆に活用等B問題については平均がかなり低いのですが、高い子どももかなりいます。これは芦屋の特徴でもあるかと思えます。先ほど小石委員からもありましたが、分布表が出ています。教育委員会としては資料もこれは持っています。よくフタコブラクダということで底辺の子が高くて、また上位層も高いと。これは一番学校としてもしんどい状況で授業するのも大変ですが、下の子どもたちがかなり引き上げられている状況が生まれてきています。例えば、全国平均の分布をとっても、芦屋のほうの下は少なく、全体の山が右側へ寄るといふ分布にもなっています。特に、数学が高いのには、チューターの役割が非常に大きいと思っています。

米原企画部長 それでは、議題の2に参ります。平成28年度当初予算要求における教育委員会の主な事業について、お手元に資料をお渡ししているかと思いますが、順次、教育委員会事務局から説明をお願いいたします。

岸田管理部長 それでは、A4で1枚物の資料です。

今、説明した本市の子どもたちの学力の状況、あるいは、今、教育委員会で策定している第2期教育振興基本計画において、今後、本市が取り組んでいきたいと考えている新たな事業を掲げています。ただ、現段階でこれは教育委員会の思いということで、それぞれの事業においては、予算の措置も絡みますので、今後、財政部局等とも調整をさせていただいて、最終的には議会の議決を得る必要がありますのでご了承ください。

それでは、資料に掲げています各事業について、それぞれ担当より簡単に説明させていただきます。では、学校教育部からお願いします。

北野学校教育部長 先ほど申し上げたチューターの配置ですが、継続して配置しているおかげで成果が出ています。全国調査の結果でも、差がつきやすいB問題でかなりの結果が出ていることは非常にうれしいことだと思っています。長く続けていくことで、チューターにも教員の経験者の方が入り、本当に力のある人、指導力のある人が継続して入っている成果ではないかなと思っています。これは他市にない本市の大きな特徴だと捉えています。

そして、図書費のことについて触れておきたいと思います。子どもの読書のまちづくり推進事業が始まったころに比べて、子どもたちが図書館で本を借りる冊数は大きく伸びています。データの的にも出ています。

それから、学校給食に関して、本市の学校給食は他市にも誇れるようなものが提供できており、各学校に栄養士が配置されているという状況は大きいと思っています。栄養士がそれぞれの学校の子どもたちの状況、実態に応じてメニューを工夫して、よりいいものを提供しようということで切磋琢磨していますので、それが質の向上につながっていると思っています。

中学校給食が潮見中学校でも始まりました。これが自校方式でできるということが非常にありがたいことだと思っています。今回、委託で始まっていますが、新規の調理員が芦屋市出身の方が採用になっています。芦屋の給食を食べてきた人がそのまま芦屋の調理のほうに入っているということです。自校方式のいいところは、温かいものをすぐに提供できるということもありますし、何かトラブルがあったときにすぐに原因究明と対応ができる。あとの2校についても、時期はずれますが自校方式で実施できることが非常に嬉しいことだと感じています。

併せて、幼児教育の充実ということで、3歳児対象の親子ひろばの実施を考えています。目的としては3歳児と保護者の居場所づくりと、それから、幼稚園の空き教室、地域への解放というものがあまして、大体、週1回3歳児と保護者の方が幼稚園の在園児との交流等の活動に参加できるような体制がつくれればと考えています。

それから、小学校のスポーツ交流会の実施ということで、小学校の子どもたちが総合公園でスポーツをするようなイベントができないか計画を練っているところです。

それから、今日的な課題に対応した教育として、中学生の海外派遣事業という

ことですが、市民のアンケート調査からも、これからの英語教育、外国語教育、それから、多文化共生も含めた教育のニーズが非常に高まっている状況です。その中で中学生をモンテベロ市へ派遣できないかということで計画しているところです。子どもたちの英語学習のモチベーションも上がりますし、何よりも行った子どもたちが異文化、他文化を理解して、また自国の文化を発信して、そういった文化交流ができればいいと思っていますし、モンテベロ市との交流もさらに深めるきっかけになる、ということを狙いとして考えています。

併せて生徒指導の、いじめ・不登校対策の充実として、スクールソーシャルワーカーの配置を実現できないか考えています。昨今、本当に家庭への支援が必要な家庭が増えてきています。福祉との連携が欠かせない状況ですので、必要性というのは大分認知されていると思っています。県や国への要望もずっと出している中で、できれば補助が受けられるような形で配置ができればと思い、働きかけをしているという現状です。

以上です。

岸田管理部長 それでは、6番の学習環境の整備、精道中学校周辺状況調査の業務委託について。これは今後予定しています精道中学校の建替えに向けて、精道中学校も含めた周辺地域の地盤面の調査、あるいは各種の測量などを予定しているものです。精道中学校の建替え予定というのは本来、今の計画上では山手中学校の設計が終わって建替え工事に着工する平成29年度から設計等を開始する予定ですが、この地域は地盤面が低い地域です。この校舎の建替えに併せて、津波対策という大きなことまではできませんが、50年、60年スパンの大工事ですので、近年頻発していますゲリラ豪雨など浸水被害にも対応して、周辺地域の治水対策などの観点から地域の地盤面・地質調査、時間あたり雨量と排水雨量の関係というような総合的な周辺の調査を行って、その後の精道中学校の基本設計などに反映できるものについては反映していきたいです。ただ、これは予算にも絡むことですので、例えば、精道中学校の校舎の下に大きな雨水の貯留槽を設置して浸水対策にするなど、そういったことも含めた大きな基本設計の材料にしたいということです。

要は、いずれにしても精道中学校の給食の実施時期、平成32年の10月、これを遅らせることができませんので、基本設計や実施設計を予定どおりに進めるため

にも、通常の建替え、例えば、岩園小学校とか精道小学校の建替えのときには必要なかった、こういった周辺調査を前倒しで実施したいという思いです。

以上です。

この後7、8、9は社会教育部から説明しますが、7番のキッズスクエアについては、日々のキッズスクエアの様子を、映像で用意していますので、先に8番、9番を説明して、最後に7番のご説明をさせていただきます。

中村社会教育部長 それでは、社会教育部から8番からご説明をさせていただきます。社会教育部については3つ載せていますが、新規という事業ではなく、拡充という事で載せています。8番について、私から説明します。

図書館サービスポイントの増設ということで、陸橋のところと庁舎のところに「かばんの中に1冊の本を」という横断幕を大きく掲げています。また、今、策定中の教育振興基本計画、第2期の部分でも大きな柱立ての1つとして、今回新しく子ども読書のまちづくりということが設定されています。

その中で図書館についても、今後のサービスの向上を図りたいと考えています。昨年4月に阪神芦屋との連絡通路のところに図書の返却サービスポイントを設置させていただきました。当初は思うようにご利用いただけませんでした。最近では周知も大分でき、昨年は1日平均45冊ぐらいだったのが、現在は60冊以上、70冊という形でご利用いただいています。

ただ、外向きには無味乾燥だということで芦屋にマッチしてないというようなご意見もいただいていますので、今後もこういった図書館のサービスポイントは順次拡充していきたいと考えています。次年度についてはJR周辺に1カ所、もう少し芦屋にふさわしいエレガントなものが設置できればと考えています。

図書館サービスポイントについては以上です。

次に、文化資源の継承と啓発は、担当課長の長岡からご説明させていただきます。

長岡生涯学習課長 国指定史跡会下山遺跡発掘調査60周年、国指定5周年記念事業ということで、記念フォーラムを実施したいと考えています。会下山遺跡は昭和31年、1956年に初めて発掘調査が実施されてから平成28年度で60周年になるということと、平成23年に国史跡に指定されましたので、それから5年になる記念の年ということで記念事業を考えています。以前も平成18年に発掘調査50周年記念フ

フォーラムをルナ・ホールで開催したときに、申し込み人員を大きく上回ってたくさんお申し込みをいただきまして、立ち見が出るほど盛況でした。そのときは古代史の研究者でもある俳優の荻谷俊介さんをお呼びして、会下山から邪馬台国へというテーマを持ってパネルディスカッションをさせていただきました。その後機運が高まり国指定につながったということもあります。また、この記念の年にそういったフォーラムを開催することによって、国指定遺跡会下山遺跡の存在を市民の方を中心に広く全国にアピールして、今後、実施していかなければならない会下山遺跡の史跡整備もありますので、そういうことについてもご理解をいただきたいということを目的としています。

内容として、公民館と共催でルナ・ホールで行いたいと考えています。候補者は何人か有名な弥生時代の研究者の方をお招きしたいと考えていまして、その方をお願いしようと考えています。講演をしていただいた後、パネルディスカッションなどを同じように実施したいと考えています。参加した市民の方が最新の調査研究水準をもとに、会下山遺跡の学術的価値を理解していただけるような内容で、わかりやすいものを実施したいと考えています。このような内容で今現在、担当課で考えている状況で、これからまた詰めていくことになっていきます。

以上です。

中村社会教育部長 次に、先ほど紹介いただいた、5月から始めているあしやキッズスクエアの拡充ということで、まず3校ですが、こちらが現在どのようなことを校庭、それから教室などを使ってさせていいただいているかということと、課題も多いですが、子どもたちの楽しそうな様子をご覧いただければと思っています。

上田教諭 あしやキッズスクエアについてご紹介させていただきます。

あしやキッズスクエアについては、現在、精道小学校、山手小学校、潮見小学校の3校で実施しています。来年度については、宮川小学校、朝日ヶ丘小学校、浜風小学校の3校を予定しておりまして、再来年度、残りの2校を実施し、8校完全実施を目指しています。

対象は、実施小学校区に居住する1年生から6年生までとなっています。

実施時間については、通常授業のある期間については、放課後、5時限目が終了した時点から午後5時まで行っています。現在、11月、12月については、日没の影響で午後4時30分に終了しています。また、夏休み、冬休み、春休み及び代

休日については、朝の8時半から午後5時まで実施しています。

登録児童数については、現在836名の児童が3校で登録しています。最初540名でしたので、約300名がスタート以後に登録されていることとなります。精道小学校については367名、ほかの学校は200数名となっていますが、平均登録率は3校で42.4%、校区の真ん中であって、アップダウンのない精道小学校は登録率も高いですし、高低差があったり校区が広い小学校については40%を少し切るような形で登録されているように思います。

利用平均、1日の1校あたりの平均人数は22.5名となっています。各小学校の月別の平均日数では特に大きな差はないように思います。精道小学校は後でも事情等説明しますが、開催事項に制限はありますが、利用率は高いように思いますし、山手小学校、潮見小学校等も登録者が少ない割にはたくさんの方が利用していると思います。夏休みはもう少し多い人数を見込んでいましたが、出かけられる方もたくさんいたようで、ほぼ毎日開催していましたが、利用は少なかったように思います。

活動場所については、従来の校庭開放は校庭のみでしたが、今回は校舎内をお借りしまして、校庭及び校舎内で活動を行っています。

スタッフについては、通常、マネジャー1名、安全管理人2名の3名で運営しています。1人が室内、1人が外を見守って、マネジャーが管理運営をするという方式をとっています。また後で紹介する体験プログラムについては、実施しているときには、この3名とは別に1名から2名の指導員を配置して体験プログラムを行っています。また、今、話したスタッフについては安全を見守るのが中心ですので、一緒に子どもたちと遊んでもらうボランティアを随時募集しています。

現在、クラーク国際高校については、精道小学校にて、週1回月曜日、授業の一環として来ていただいていますし、夏休みについては2週間、20名の学生さんがボランティアとして参加しました。また、芦屋大学については、山手小学校、潮見小学校に随時来ていただいていますし、甲南大学についても、11月から山手小学校に来ていただく予定になっています。また、この後、少し触れますが、甲南高校については、ボランティア委員会の協力を得て10月より週に1回、高校生が5名ほど来て、校庭で一緒に遊んだり、カードゲームなどの体験をしてもらっています。また、ほかの学校についても随時募集しており、たくさんの方のボランテ

ィアが来ていただけたらと思っています。こちらのほうについては、一切、交通費等の支給がありませんので、教育委員会からボランティア証明書を発行し、お礼にかえさせていただきたいと思っています。

登録した子どもは、必ず保護者の方に毎日行く日に日付を書いていただいて捺印した参加カードを持ってくる必要があります。必ず保護者の承諾がないとキッズスクエアには参加することができませんので、そこが少し変わっている点だと思っています。

潮見小学校のキッズスクエアの活動場所ですが、子どもたちは来た時に、参加カードをそれぞれのかごに置いたり、指導員に見せた後にかごに入れたりします。その後、名前、学年、自分が来た時間等を書くことでキッズスクエアへの参加が可能になります。潮見小学校ではバッジをつけますし、山手小学校ではビブスを着用するなど、学校の地域に応じて変えています。

今から紹介する内容には、3つの特徴があります。1つはさまざまな体験をすること。もう一つは、異年齢、異世代との交流をすること。もう一つは地域の方とつながることを大事にしています。

芦屋の子どもですが、放課後すぐに遊ぶのではなく、まず宿題をする。宿題をしてから遊ぶ子どもが非常に多いです。家でしたら1人で勉強するだけですが、友達と一緒に九九の勉強をすることで、1人で覚えるのではなくて友達と一緒に覚えるのは、キッズスクエアで勉強する効果だと思っています。

このほか、勉強が終わった子どもはオセロをしたり、坊主めくりをしたりという、古典的な遊びも取り入れています。他市でもボードゲーム等が注目されていて、電子ゲームで遊ぶのではなく、ボードゲームでアナログ的な思考であったり、子ども同士でルールを考えたりすることを大事にしています。今の教育事情、家庭事情で、友達と一緒に家で遊ぶという経験が不足していて、家に友達に来てもらうのが難しい家庭等もありますので、居場所を提供して友達同士が放課後遊べる時間を提供できればと思います。

市民の方から寄贈していただいたサッカーゲームもあります。男の子だけでなく、女の子がグループで遊ぶような機会にもなりますので、ゲームを使いながら遊ぶ時間を共有できればと思っています。

ほかの子どもたちは基本的に校庭でドッジボールやサッカー、野球等をして遊

ぶ子どもが多いように思います。安全管理人がいて、遊びに一緒に参加するのではなくて、ほかの子どもたちも安全に遊んでいるかどうか見守っています。

潮見小学校の11月の体験プログラムについてのスケジュールですが、随時、芦屋市のホームページに掲載しています。保護者については登録者全てにプリントを配るのは難しいので、ホームページ上に毎月の最新の情報を提供して保護者の方に確認するようにお願いしています。上に活動時間、体験プログラムの開始時間、体験プログラムの実施内容等について書いています。山手小学校については地域の方が運営していますので、地域のいろいろな方にご協力いただいています。

精道小学校については、雨の場合は中止になってしまうような形でして、今は金曜日だけ試行的に雨の場合も運営させていただいています。今後、さらに協力いただいて毎日運営できるようになればと思っています。

<体験プログラムについて説明>

小石委員 さきほどの話にもありました家庭や地域の問題が引っかかっているケースは、スクールカウンセラーがそういったところまで出かけるのが難しいので、こういった人が今、必要だと強く感じますね。

福岡教育長 私自身、芦屋に来て30年経ちます。マンションに住んでいて、隣はつき合いですけど、1階上になったらもうわかりません。地域のコミュニティーとしては、子ども会などさまざまあります。しかし、子ども会活動で、行ったら役をさせられるから嫌だというように、世の中が変わってきたと思います。教育委員会として、子どもを1つのキーとして芦屋市民の居場所を考えていく必要があると思っています。

その1つとして、キッズスクエアです。ただ単にそこに行くというのではなく、その方も、そこへ行ったら認められる、そこへ行ったら役割があるということです。子どもたちも異年齢と触れ合える。芦屋の子どもたちが一番多く集うのは小学校です。幼稚園、中学校はありますが、90%は来ている小学校が1つの核としてなり得る。そういう意味でキッズスクエアが居場所としてうまくできたらと思っています。知の循環型社会として、その人の経験がそこで生かされるというような仕組みをここでつくりたいと考えています。

山中市長 キッズスクエアは2校が遅れるのはなぜですか。

中村社会教育部長 体制の問題もあり、3校ずつぐらいで、順次、拡大していくとい

うことで進めているところです。そもそも学童保育という保育を必要とする子どもたちの事業も行っていますので、補完的なものになればいいかなというのも1つありました。学校自身の工事の問題もありますし、スペースの問題もあって、専用区画が確保しにくくなってきているという実情もあります。順次進めながら、最終的には全校を拡大していきたいと考えています。

始めてから今、半年ですけれども、キッズスクエアに対しての専用区画というのは厳しい状況があって、進みにくい点です。しかし、地域の高齢者の方にも集っていただき、お手伝いいただけるような事業に、核家族化で兄弟がいないご家庭も多いですので、中学生、高校生、大学生でも一緒に集っていただいて一緒に成長していただけたらと考えており、いい事業になってきたなと思っています。

山中市長 留守家庭児童会とどう区別をするのでしょうか。

中村社会教育部長 留守家庭児童会については、入るために必要な要件もあります。

ただ、高学年になってきますと、家庭によっては自由度を求められるお子さんもおりますので、留守家庭でなくても、こちらのほうが向いているなという、自分で選んだり、ご家庭で選んだりすることもできます。両方必要な方は両方来ることができますから、選択肢の1つと考えられると思っています。

浅井委員 あしやキッズスクエアには、予想以上にいろいろな体験の講座があり、普通にはできないような遊び方も教えていただいたり、その辺が大変いいなと思いました。お話が出ていますように、地域の教育力を高める意味でもこれはいいということを改めて感じまして、普段子どもたちに接する機会のない方もこの事業を通して子どもたちと接し、交流していただけたと思います。反面、安全面のこと、場所の確保ということで、深刻な課題があると思います。たくさんプログラムを盛り込むのもいいですが、もう少し息切れしないように、本当に長く続けられるよう慎重に、この半年の成果や実施状況を検証しながら、次の年度に向けていただきたいと思います。

木村委員 同じ意見ですが、非常にインパクトがあって、この内容が広く知られるとおそらく、いろんな家庭でこういう体験をさせたいという保護者が急増すると思います。ただ、例えば、企業でも急拡大の時期が一番危なくて、それで無理をして潰れてしまうということが結構あります。これから迎える急拡大があるかもしれませんが、そこは慎重に一步一步地固めをして歩まない、変なところでつま

ずいて、より大きな問題が生じてしまうこともあるので、逆に気持ちを引き締め
て取り組んでいただきたいと思います。

同じことを申しますが、しんどい面もたくさんあって、そこをP D C Aではな
いですが、チェックをしながら進めていくという方法で、慎重に進めていただき
たいなと思っています。

小石委員 参加している学年の分布というのは人数的にはどのような感じですか。

上田教諭 低学年が多いです。登録児童についても、5、6年生は参加者、登録者も
少ないです。

小石委員 かなり少ないですか。

上田教諭 少ないですね。ですので、今、お話しさせていただいているプログラムだ
けではだめですが、例えばスナッグゴルフでは、3年生以上限定です。1年生、
2年生は危ない、ルールが守れないということもありますので、そういうふう
に高学年が来て楽しいプログラムであったり、高学年が来ても楽しい雰囲気づくり
みたいなことを今後していきながら、高学年の子どもも楽しく安全に遊べたり、
家庭のかわりに居場所づくりとなってもらえるように考えています。それはまだ
まだ力不足のところがありますので、今後、そういう雰囲気とか、子どもたちの
興味を持っていけるようにして、低学年だけの遊び場になってしまわないよう
というのは大きな課題だと思っています。

松本委員 話題は変わりますが、読書のことについて、図書費は他市に比べてたくさ
んもらえているということですが、教育振興基本計画の策定委員会のときに井上
一郎先生が、第1期で既に読書を推進しているということで、もう第2期なので、
読書といっても、今の時代は多読とか余暇に読書をするという時代ではないとい
うことをおっしゃっていて、精読とか速読とか、もう次の段階だと。それから学
校図書館はメディアセンターの働きをするような時代を迎えているということ
です。読書担当の先生、調べ学習担当の先生、情報の先生という3種類の先生が私
学だったらいらっしゃる場合もあります。読書のまちと言うのだったら、そう
いうところをもっと推し進めないといけないのではないかと思います。

それは、すごくお金のかかることなので、そんなにすぐにはできないとは思
いますが、大きな柱としているので、給食や校舎の建替えなど、大きくお金のかか
ることもたくさんありますが、学校図書館も1つの子どもの居場所でもあります。

もし整備もどんどんされていけば、ずっと先の話になると思いますが、キッズスクエアでも部屋がないという問題がある中で、図書室を使って何かすることもできるのではないかと思います。そういう意味で、本だけでなく、学校図書館の整備も、キッズスクエアのように少しずつ進められないかなと思っています。

福岡教育長 図書室、図書館というのは、私は情報センターだと思っています。情報センターというのはパソコンがあつたり本を読んだり、調べたりする基本的な原型はそこにあると思います。空間が2つあつたらいいなと思うのは、静かに調べられる、静かに読める場所と、みんなでわいわい言いながら調べたり議論したりする場所です。新しいタブレットなどで、みんなでわいわい言いながら調べてみるといいでしょう。

私の夢は、芦屋に行ったらどこでも本があふれているという、ブックガーデン芦屋をぜひ何年かの中でできれば、という思いは持っています。ケーキ屋さんや美容院、洋服屋さんなど、あちこちに本が見られる。学校の図書館もPTAの皆さんに開放するなど。

小石委員 この最後の、文化資源とのかかわりで、芦屋にかかわる歴史や文化など、そういったものをどこかにまとめて置いているスペースはありますか。芦屋の歴史や文化など、芦屋に絡んだ図書がここへ行ったら全部見られるなど。

米原企画部長 図書館ですね。

長岡生涯学習課長 芦屋市の地域ではないですが、コーナーがあると思います。

浅井委員 美術博物館にも、「あしや子ども風土記」などはずっとバックナンバーから並べていたりしています。

小石委員 ちょっとそこから離れてもいいですか。この健やかな体のところの2番目、体力向上を目指して、です。最近、すごく印象に残るのは、1年生の子の走るフォームが結構よくなってきているというのにすごく驚きます。昔は3年生ぐらいになってやっと走るという感じが、フォームらしいフォームがだんだんできてくるのに、今は1年生の子でも結構走っています。聞くところによると、教えてくれるところがあるという話でした。

いろんなスポーツの基礎を専門家が来て教えてくれる、そういう場があってもいいのではないかなということは思いますね。みんなにそれぞれのコーナーでいろんなスポーツの基礎みたいなものを楽しんで学んでもらうというのはどうです

かね、教育長さん。

福岡教育長 幼稚園に大学の先生に来ていただいたりして、ものすごく力を入れています。話が飛びますが、成人式でビデオを流したら、私立の中学校に行った子は、精道、山手、潮見中学校の画像を流しても関係ないからおもしろくない。でも、小学校になると声が上がります。みんな共通は小学校なんですね。小学校で、何々先生だとか言ってね。だから、成人式に行ったときの1つの楽しみは、そのときの気持ちに戻れる、タイムトリップするというか、そういう意味では小学校の思い出を私は大事にしたい。子どもたちが集まったら、あのときの給食おいしかったね、あんなことがあったねなど話に出るのは、そういったときの思い出です。

木村委員 1番の幼児教育の充実で、3歳児対象親子ひろばの実施というのがありますが、7つの幼稚園で行っているということで、これは在園児童というか、4歳児とか5歳児との交流ということも予定されていますか。

北野学校教育部長 今年行っている分は、浜風幼稚園で、年少の子がいないということもありまして、下の学年との交流をしています。在園児が一緒にいる時間帯に行っていますので、一緒にする部分と、それから別にする部分と。教室もありますので、別メニューですることもあります。

木村委員 わかりました。この間の市長さんとお話し合いで申しましたが、9の文化資源の検証と啓発で、会下山遺跡の記念事業が予定されているということで、このあたりは、ボランティアで草刈りに行ったことがあります。2時間ほどの間ほとんど人が通らない。かなり山の上の方で行きにくい場所ということもありますが、会下山というのがどこかにあるのはわかっているけど、どこにあるのかよく知らないという市民が多くて、行ったことがないという人も多いと思います。記念事業をするのであれば、ちょうどハイキングコースになっていて、上がっていくと風吹岩に行って、ロックガーデンのほうに行けるということになっていますので、1つそういうハイキングをしながら会下山も見ようとか、そういう企画を行ったり、市の施策の全般で何か観光ガイドマップとか、そういう売りを、芦屋市として観光資源がこれだけあるということをもっともっと広くアピールしていく。会下山もその1つですが、そういうことをホームページでもっと充実させるとか、様々な方法があると思います。

今、割と外国人が結構観光に来ていますが、芦屋にも来てもらえればいいと思うので、そういった広い観光資源の1つという位置づけで、そういったことも考えてみたらいいのかなと思います。

以上です。

米原企画部長 議題は以上のおりです。事務局からの連絡をお願いします。

奥村政策推進課長 事務局からご連絡です。この総合教育会議ですが、今年度もう一度、年度中に開こうと考えています。最終は2月、または3月ごろと思っていますので、また日が決まりましたらご連絡させていただきますので、よろしく願いいたします。

以上です。

米原企画部長 それでは最後に、教育長から一言ご挨拶お願いいたします。

福岡教育長 今日は2つの議題に対して、素朴な思い、また質問等が出されました。

4月から新しい教育委員会制度になって、この会が持たれました。この会自体が傍聴の皆さんも含めたオフィシャルの場で、市長、そして教育委員が議題に対して意見を述べたり、考え方を整理したりするいい機会だと思います。みんなが芦屋の教育に対して語れる場であってほしいかなと思います。

そういう中で、事務局の皆さんには日程調整から議題の内容等、非常にうまく調整していただいて感謝を申し上げます。今後、また第3回がありますので、わくわくするような話も入れ、また現実的にこれはカットすべきところはカット、でも、ビルドするものはビルドするという意見も出されてもいいかなと思います。それがまさに芦屋の教育、教育だけにこだわらず芦屋全体の問題として共有化でき、それこそ市長部局と教育委員会が一体になれるいい場だと私は思っています。焦らず、いい形で進めていきたいと思っています。今日は本当にどうもありがとうございました。

米原企画部長 どうもありがとうございました。本日はこれで終了いたします。ありがとうございました。